

Trap-17

<テキスト 78,79 ページ>

今週の学校新聞のトピックは、わたし達の学校での強制的な服装規定あるべきか否か、というものだ。最初に選ばれた意見は10学年のモニカ・モリナから提出された。

彼女は書いている、

生徒が学校に着て来てもよいものについては、いくらかの制限が必要だ。服装規定がなかったら、生徒達は不快で不適當だったり、脅すような衣服を身に着けうる。不快な標語や、ドラッグ・アルコール・タバコを助長するような絵のついた衣服は許されるべきではない。人種や性差への不快な絵や標語もだ。気が散るような絵や文字の書いた衣服が、生徒の注意を勉強からそらすのなら、なぜ生徒はここにいるのでしょう。生徒や先生達を脅かすようなメッセージや絵柄の衣服は着られるべきではない。服装規制がない学校にいることは、とても良くないでしょう。学校で学び働く全員のことを考慮すれば、服装規制はあるべきです。

- ①たくさんの生徒が他のものを脅かすような衣服を着る
- ②喫煙を助長するようなことが書かれた服を着ることは、そんなに悪いことではない。
- ③服装の規則は、学校のみみんなを不快になることから守らなければならない
- ④ほとんどの生徒が学校にはふさわしい衣服を着て来ない

<テキスト 80,81 ページ>

類題演習

わたし達の次の意見は、11年生のキシャン・サンサによって提出された。

生徒は、学校に何を着て行きたいのか自由に選ぶべきだ。不快な文字が書かれたシャツもあるかもしれないが、大多数のものはそうではない。ほとんどのメッセージは、授業での集中や学習に悪影響を及ぼさない。もしわたし達にちゃんと服装規定があったら、生徒は侮辱的な言葉のついた衣服は着られないと明言しなければならない。しかし、それはそれ。わたしは、服装規定があろうがなかろうが、友人達は素敵で学校にふさわしいものを着るだろうと思う。先生達は、わたし達はその衣服が学校にふさわしいか否か、判断することができると信用すべきだ。

- ①服装規定は、生徒が攻撃的なメッセージの書いた衣服を着ることを防ぐことはできない
- ②だいたいの場合、生徒はどんな服装が学校にふさわしいか判断できる
- ③先生は、生徒が受け入れるであろう服装規定をつくることで信頼される
- ④生徒は服装規定を自分達でつくるように奨励されるべきだ